

とうゆうだより

編集人：とうゆう便り編集委員会
印刷：旬ミヤサカ印刷
0263-47-3017
送付先：松本市蟻ヶ崎 4-4-38
TEL 0263-36-6300
FAX 0263-39-7180

社団法人日本糖尿病協会関東甲信越地方協議会機関紙第93号 発行人 大槻瀬平

平成21年度総会が開催される（東医健保会館 4月23日）

- 基本方針
- ・支部組織の強化と会員数の増員をめざす（この半年で 22,556 人から 1,660 人に減少したため）
 - ・支部単位のセミナー開催の推進 ・年間 1 人当たり 80 円の会費で、予定予算総額約 585 万円
 - ・支部事務局強化のため、1 人当たり 50 円の額を交付
 - ・世界糖尿病デーライトアップ、支部間交流の推進
- 活動計画
- ・支部長会の開催 ・とうゆうだより（7・1 月発行）
 - ・第 28 回関東甲信越糖尿病一群馬セミナーの開催
- 役員
- 会長：大槻瀬平 副会長：北村信一、菅原正弘、本山昭一
事務局長：米沢光夫（赤堀和子氏は退任）長い間ごくろう様でした

総会の模様



組織率（会員数 / 人口 × 100）のランキングと会員数の増減

支 部	組織率 (%)	会員数 (人) (21 年 4 月)	半年間の増減
1 長 野	1.145	2,272	-278
2 群 馬	0.816	1,438	-222
3 新 潟	0.624	1,439	-97
4 東 京	0.569	6,651	-357
5 栃 木	0.418	810	-21
6 千 葉	0.412	2,220	-262
7 埼 玉	0.360	2,290	-243
8 山 梨	0.355	285	-30
9 茨 城	0.316	978	+31
10 神奈川	0.311	2,525	-181
計		20,896	-1660

第28回関東甲信越糖尿病一群馬一セミナー開催計画

日時 11月8日(日) 会場 前橋市民文化会館

セミナー世話人

群馬大学
伴 野 祥 一群馬県支部長
中 山 正

「上州から広げよう! ブルーサークル」

群青(ぐんじょう)、人情そして友情

関東甲信越10県の持ち回りで開催されてきました「関東甲信越糖尿病セミナー」も3巡目の終わる第30回をもって終了することが昨年決定されました。このため、群馬県での開催もこれが最後となります。関係者一同、悔いのない有意義なセミナーを行おうと張り切っております。より多くの方々に糖尿病に関心を持って頂く場として、そして、関係者には貴重な学びの場、連帯の場として、盛大に開催されることを願って企画を進めています。

「糖尿病があっても笑顔で充実した人生を送りたい」。その願いをかなえるには、患者さん自身はもちろん、それを取り巻く家族・友人、医師や医療スタッフ、そして、同じ糖尿病の仲間など多くの人々の支え(人情・友情)が必要です。それらの人々の輪をブルーサークルに表して、上州群馬の地から青空(群青)を通じて世界中に発信してゆこうと今回のテーマが決まりました。この日この場にいられたみなさんに、眼で見て、耳で聴いて、肌で感じていただける企画を考えています。

糖尿病の知識については、食事や薬についてのちょっとしたコツ、今後の治療薬の展開など、教科書にはのっていない情報が満載です。糖尿病の治療指導に当たる医師、治療スタッフや一般開業医の方にも興味深い内容であり、かつ、患者さんにも十分ご理解いただけると思います。

大ホールでは昼食と休憩の時間を2時間とたっぷりとり、この間にロビーなどで参加型の「だるまスタンプラリー」を行います。看護師や栄養士など医療スタッフのコーナーをめぐってフットケアなどの体験やクイズを行い、ポイントを集めると、今回のセミナー限定の「ブルーサークル『だるま』」がもらえるというものです。楽しみながら、糖尿病の知識が得られ、心も体もホッとして、さらに「だるま」のおみやげ付きです。

ぜひ、晩秋の1日、上州の地に集まって、大きなブルーサークルの輪に加わりましょう。皆様のお越しをお待ち申し上げます。

21年度の小児糖尿病福祉功労賞
東京(つぼみの会) 石場俊太郎
長野(ぶらんこの会) 柳沢節子

セミナーの年次…第29回(平成22年)栃木
第30回(平成23年)新潟の30回で現在の
方式のセミナーは終了その後は各県で自
主開催となります。

第28回関東甲信越糖尿病－群馬－セミナー会場－プログラム

日時：平成21年11月 8 日（日）

AM9:15～PM4:30

場所 前橋市民文化会館（前橋市南町62-1）

●電車の場合（JR 両毛線・前橋駅から
徒歩五分）

●自動車の場合（関越自動車・前橋 IC
より20分）

共催：日本糖尿病協会関東甲信越地方連絡協議会
日本糖尿病学会関東甲信越支部



テーマ：

「上州から広げよう！ ブルーサークル
群青（ぐんじょう）、人情そして友情」

	一般向け（大ホール）			スタッフ向け（小ホール）	
9:15	世界糖尿デー 世界の取り組み、 群馬の取り組み 小児糖尿病の君たちへ ～夢を忘れないで 患者として医療スタッフとして 七転び八起きるの体験談 老後をみつめて ～介護の現場から 休憩+だるまスタンプラリーの説明	伴野祥一 山田思郎 医療スタッ フ他、 正田純史	9:30	皆で支える糖尿病、 ここが知りたい指導のコツ紹介 生活に合わせた栄養指導 ～食品交換表をこえて 口腔ケアは糖尿病ケアの入り口 外来でフットケアをはじめるために 休憩+だるまスタンプラリーの説明 血糖変化に向き合うために (BGAT) 糖尿病治療薬の選び方 (インクレチン、ジェネリック含めて) 外来で始めるインスリン導入、 血糖測定指導のコツ 外来診察で血管合併症をどこまで みるか。(眼、腎、動脈硬化)	宮田洋子 小内 亨 歯 科 医 中村保子 溝口史剛 清水弘行 秋山 仁
12:00	だるまスタンプラリー (大ホール内、運動またはフット ケア実践)	運動指導士	13:00		
14:00	糖尿病と笑い 花の心、上州の心 (星野富弘氏、絵と詩の朗読) 耳を開く、心を開く ～音楽療法 私の青空、世界の青空、 そして皆の笑顔 青空の下で（歌と踊り）	中島英雄 (桂前治) ナレーション 首村映子 映像と音楽 安部純			

支部活動（長野・神奈川・東京）

長野支部

①行事

- 1 月 25 日 坂口賞受賞者故吉沢国雄先生を偲ぶ
会が浅間病院で開催。
- 2 月 20～22 日 第 43 回糖尿病学の進歩全国集い
全国から 3 千人が参加し松本市文化
会館外市民開放講座も開かれ市民 3
百人が参加した。



- 3 月 25 日 りんどう 47 号発行
- 4 月 25 日 総会
- 5 月 各地区会議
- 8 月 サマーキャンプ
- 10 月 信州糖尿病セミナー佐久市
- 各地区週間行事。11 月 14 日世界糖尿病デーライ
トアップ（長野日赤、浅間病院、諏訪日赤、市
立飯田病院、松本城）
- 12 月 6 日 地区会長会議

②新分会紹介

- 松本医療センター糖尿病友の会：会員 20 名、
指導医青木雄次、会長百瀬尊信

神奈川支部

①行事

- 3 月 15 日 食事会
- 3 月 28 日 「しんとう」 102 号発行
- 5 月 10 日 総会
- 6 月 28 日 一泊研修旅行
- 10 月中旬 ウォークラリー
- 11 月週間行事
- しんとう 102 号発行
- 毎月 1 回調理実習

②新分会紹介

- もくぼ内科クリニック
きずき会 会員数 30 名 指導医 もくぼ敦子
会長 渡辺 幸一

東京支部

①行事

- 2 月 1 日 第 7 回糖尿病市民セミナー
- 第 17 回インシュリンフォーラム
- 歩く会 4 / 12, 5 / 10, 6 / 14, 6 / 3 ～ 6 / 4 旅
行会（伊勢神宮参拝と鳥羽温泉）
ブロック教室 5 回（14 回城南, 21 回多摩, 23 回
城北、22 回多摩、21 回城東）
- 9 月 27 日 ウォークラリー（葛西臨海公園）
- 10 月 3 日 第 10 回糖尿病予防講演会（前進座劇
場）
- 10 月 25 日 歩く会
- 11 月 14 日 第 45 回糖尿病週間講演会（九段会館）

支部活動（栃木・千葉・茨城・群馬・新潟・埼玉・山梨）**栃木支部****①行事**

- 3 月 22 日 ヤング小児糖尿病講習会
- 5 月 16 日 総会、講演会
- 小児糖尿病サマーキャンプ
- 10 月 ウォークラリー
- 11 月 世界糖尿病デー
- 12 月 16 日 糖尿病無料相談会

千葉県支部**①行事**

- 1 月 10 日 「ぼうそう」 39 号
- 1, 2 月 理事会他
- 4 月 10 日 「ぼうそう」 40 号
- 4 月 26 日 総会
- 7 月 分会長会
- 8 月 7～10 日 小児糖尿病サマーキャンプ
- 9 月 10 日 「ぼうそう」 41 号
- 10 月 青葉ウォーキング
- 11 月 市民のための糖尿病教室（君津市民文化ホール）

②新分会紹介

- 栗山マロン会中央病院 会員 10 名 指導医森山弘樹、会長金木裕子

茨城支部**①行事予定**

- 3 月 23 日 総会
- 6 月 7 日 ウォークラリー・講演会
- 9 月 糖尿病指導者研修会
糖尿病週間関連行事（分会）

群馬県支部**①行事**

- 4 月 12 日 総会
- 4 月 群馬ヤング DM キャンプ
- 8 月 ひまわり会小児サマーキャンプ
- 9 月 ウォークラリー
- 9・10 月 無料血糖相談会
- 11 月 8 日 第 28 回関東甲信越糖尿病セミナー
- 11 月 14 日 世界糖尿病デー

新潟支部**①行事**

- 6 月 4 日 総会
- 8 月 17～28 日 サマーキャンプ
- 10 月 3 日 長岡糖尿病を知る集い
- 10 月 25 日, 28 日 糖尿病を知る集い

埼玉支部**①行事**

- 7 月 17 日 糖尿病セミナー
- 8 月 12 日～22 日 サマーキャンプ
- 30 日～East Club
- 10 月 25 日 ウォークラリー
- 11 月 つばみの会デイキャンプ・家族の集い
- 10～11 日 週間行事（無料相談会 7 日赤十字）





ワンポイントアドバイス お酒のはなし

編集委員長 多田久也(松本市 多田内科医院)

糖尿病の人はアルコールを飲んではいけませんか？とよく聞かれます。お酒を飲む話をする前に、まず、飲まないほうがよい人の例をあげてみます。①ヘモグロビンA1cが8%以上②低血糖が頻回におきる③糖尿病合併症がすすんでいる。④肝障害がある⑤飲みだすと止まらない⑥飲んでクダを巻いて嫌われる。これらに当てはまらない多くの患者さんは、禁酒するのにこしたことはありませんが、適量を守ることができれば、私は飲んでも良いと考えています。筆者が酒飲みおやじだから、患者さんにも甘いのでは？と勘ぐられる方もいると思いますが、実はそのとおりです。でも、考え方を多少ポジティブに転換してみて、血糖コントロールに悪い影響がない程度ならよいではありませんか。適量のアルコールでしたら、精神的なリラクセス効果、ストレス解消が期待できるし、なによりも食生活がより潤いのあるものになるでしょう。さらに、動脈硬化に対する予防効果も報告(外国での研究)されています。アルコールも上手な飲み方で良薬になりうるのです。

それでは、上手な飲酒のコツを3つ挙げてみます。

- ①2単位(160キロカロリー)まで
- ②食事をしながらチビチビと
- ③アルコールの種類をひと工夫

①およそ日本酒1合、ビール500ml、ワインコップ1杯、焼酎2/3合、ウィスキーコップ1/4までが適量です。先日、講演会でこの話をしたら、一見してのんべえおやじ風の人が「オレ、こんなにたくさん飲めねえヅラ(信州地方の古い方言)」と言っていました。アルコールは1日1種類ですよ。

②飲むスピードとタイミングが問題です。たとえば、食事前の空腹時や風呂上りなどに一気に飲みますと血糖管理が乱れるので、この

ような飲み方は避けましょう。司馬遼太郎のある小説に、主人公と初対面の若者がお酒を飲む場面があり、次の料理に箸を移す合間に少量のお酒を口に含むような飲み方をする若者を見て、主人公はその若者が信頼に足る人間であることを直感するくだりがありました。次のお皿の料理をおいしく味わえる良い飲み方でしょうね。御飯を食べるのは、「もちろんお酒を飲んだ後に」というのは常識、ではありません。日本古来の懐石料理では、御飯を食べながらお酒を飲むのが普通の作法だったそうです。「メシを食べながら酒が飲めるか！」と立ち上がって抗議するのんべえのあなた、試しに握りずしを食べながら1杯やってみてください。結構いけるはずです。これもひとつの発想の転換ですね。

③アルコール成分以外に含まれている糖質や蛋白質のエネルギーがばかにはできません。そういった意味では、ビールよりも日本酒、日本酒よりもワイン、ワインよりも焼酎やウィスキーがお勧めです。最近、糖質70%、プリン体85%、蛋白質100オフ(たとえばアサヒのoffという商品)のビールが発売されていますから、「不味くてもビールが飲めるならなんでもなんでもいいや」という、ビールこそわが命と思っている人には最適です。

余談ですが(全部が余談みたいなものですが)、フランスは動脈硬化が原因の心臓病で亡くなる人が世界でも最低レベルです。その理由の一つに、フランス人がよく飲む赤ワインが挙げられています(1人当たりのワイン消費量は日本の70倍、アメリカの10倍)。赤ワインに含まれているポリフェノールが動脈硬化の予防に有効であると考えられています。ポリフェノールは緑茶にも多く含まれています。

糖尿病・私の体験談

東京支部

糖尿病との出会いと付き合い

大 林 二 保

血糖値が気になりはじめたのは平成 2 年の初の高齢者健診でヘモグロビン A1c が 8 % 台を示し、危険水域にあると指摘されてからである。

このため自己流で食事改善や朝夕の愛犬の散歩など始め、一時改善効果はみられたが平成 11 年には再び 8 % 台が出現。これではならじと本気になり練馬区主催の「糖尿病ミニ講座」を受講、食事療法、運動療法の理論と実技を 1 年間学ぶ。2 回目の講義は高名な河盛隆造先生の「糖尿病の基本知識と自己管理の重要性」。先生の熱心な講義に感銘し早速 1 日

1 万歩の運動と、食品交換表は上手に使いこなせなかったものの適正摂取カロリーを 1,800 kcl に設定し主食、主菜、野菜の配分に留意するなど食の改善に努めた。また、同時に日糖協の会員になった。

さらに、平成 15 年には糖尿病に熱意を持たれる菅原医院の門を叩き、指導と服薬治療を受け、友の会にも入会させて頂き、毎月の勉強会には欠かさず出席するほか、日糖協、東糖協主催の各種糖尿病教室や歩く会などの諸行事積極的に参加し、血糖値も安定的に推移する中で多くの同病の仲間、友人を得た。平成 17 年度には日糖協から「糖尿病師範」に認定された。今後とも「継続は力なり」を体現したいものと考えている。

長野支部

先の見えない明日はなし

HbA1c のこだわり

柳 沢 勇 三

歩け、歩け一日 2 万歩以上、これが HbA1c を 6 - 7 % に維持する私の対処法です。雨風の日も継続は力なりと信じ、嫌になる気持ちを振り切って歩きます。万歩計は 10 万歩単位で計測、体調に合わせて調節しております。普通 5 日で達成するようにしています。四季の変化を五感で受け止め、動植物に馴染むのも楽しいものです。歩きながらお年寄りと

会話をしたり、時には花苗を届けたり、頂き物、道案内等、帰宅が遅くなり家内に心配させることも度々あります。いきなり 2 万歩は厳しいため、先ずは一日 5000 歩位から始め徐々に伸ばしていくようにする事をお勧めします。糖尿病や、体調に悩むのでなく自分が主治医です、出来る事を見付け実行していくことが大切です。担当医の適切なアドバイスにも耳を傾けながら努力しております。病気には過剰意識せず加齢も意識して無理のない食事、運動、生活等のメニューを作り実行しております。

糖尿病・私の体験談

千葉県支部

糖尿病と私

わかめ会 H. I.

糖尿病との共同生活が始まり、この春で 10 年が経った。学校の授業、毎日の仕事の中で関わっていたが、こんなにも身近なものになるとは想像していなかった。

臨床検査技師として働き始め 5 年目の冬、突然それはやってきた。時期を同じくして、友達と夜、ウォーキングを始めていた。順調に減っていく体重、代謝が良くなったのか体がやたらと水分を欲する。しかし、体がだるい、夜中甘いもの欲しさに目が覚め、寝ている間に足がつる。なんだかおかしい？まてよ、どこかで見たことがあるこの症状。昔の教科書の「糖尿病」のページをめくる。まさか……。自分で検査し、結果を見、「私は糖尿病」であることを確信した。放置していたら、人生初の救急車に乗ることになっていただろう。それを考えると、検査技師の道を選択し良かったと思う。

誰でも「病気ですよ」と言われれば、その時から気持ちや生活が少しずつ変わってゆく。今までの「健康な私」を見る周囲の目、「糖尿病である私」を見る周囲の目。血糖コントロールさえ上手く出来れば、健康な人と変わらない生活が出来ると言うが……。そのコントロールが上手くいかない。「糖尿病だから」を言い訳にしたくない。また周囲から勝手に「糖尿病だから」と制限されたくなかった。時々、低血糖で周囲に迷惑をかけることはあるが、他の人と同じく仕事・夜勤をこなし、海外旅行にも行っている。健康な人と同じ生活ができています。

「糖尿病」がきっかけで知り合った看護師さんや患者会の皆さん、運動を始めたことで仲間も増えた。「糖尿病療養指導士」の資格を習得し、業務の幅も広がった。糖尿病になっていなかったら、検査技師になっていなかったら違った生活を送っていたはず。でも、それを考え始めたら限りがないので止めておこう。「検査技師で糖尿病の私」だから今の私の生活がある。糖尿病である自分を受け入れ、今の自分を楽しみ、ずっと笑顔でいられることを願っている。

神奈川支部

糖尿病私の体験

吉地 祐治

私は現在 76 歳ですが糖尿病を発症したのは、44 歳の時でした。その頃は、担当の先生の処方によりダオニール経口薬を服用し、定期的に診断を受けるという治療を続けていました。しかし、59 歳の時膝蓋骨骨折により入院。骨折の治療を兼ね、糖尿病の詳細検査を願い、インスリンを注射するようになりました。以来 3 ヶ月毎に血液検査を行い、主治医の診断を受け、指導に基づき闘病生活を継続して居ります。

糖尿病は食事療法と運動療法が一番大切です。忠実に実施すれば検査結果も良く、一般の方と同じ生活が出来ます。でも人間は特に食べ物に対する欲があり、これを制するためには、療養食を如何に工夫

し、各自の理想に近い決められた栄養素に基づく単位とカロリーを摂取するかにあると思います。

私の場合は、主として運動療法の代りとして家庭菜園を約 1 アール耕作、畑作業の無い時は午前と午後約 5 km 歩いています。

また食事については、1 日 1600 キロカロリー摂取するよう指導されています。毎月 1 回管理栄養士の先生にご指導を仰ぎ、療養食の調理実習を約 13 年間継続しております。加齢に伴いインスリンの量も増え、現在ノボリン 30R を朝食前 16 単位・夕食前 8 単位を注射しております。現在 HbA_{1c} は 6.4~6.7% ですが、もう少し努力し正常値に近づけたいと思います。



糖尿病・私の体験談

私の糖尿病

埼玉支部

大崎 敬造

私が糖尿病と言われたのは、もう30年位前になります。職場で行なわれる健康診断で、糖尿病の疑いがあると言われ、市内の内科医で調べて貰ったところ、飲食を控え目にすれば大丈夫ということでした。保健婦に報告したら、専門医で検査した方がいいということです。数日後、休暇をとって検査を受けたところ、2型糖尿病である、酒を控え目にという指示を貰いました。

当時、農業の減反政策のもと農家の方との会合が多く、地区毎に週1回位は宴会の連続でした。夕方になると、欠伸がでたり体がだるく感じたり、空気がこもっているように感じていました。

検査を受けた所は現在も同じ、浦和民主診療所で

す。当時から、投薬だけの治療で毎食前に1錠（ボグリボース錠：糖の消化や吸収を遅らせ、食後の血糖上昇を抑える）。食後に血液の流れをよくし、コレステロールや中性脂肪を下げる錠剤を2錠。その他はマグミット錠1、かぜ薬などです。便秘もあるので、そんな薬も飲みます。

最近のデータは、HbA1c 6.1%、空腹時血糖 184。高いですね。1回にいただく薬は今回は6週間です。（眼科医から白内障予防薬も服用しています。）

おかげ様で、糖尿病と仲よく暮らすため、70才から、晩酌は殆どしていません。



右が大崎さん

日糖協情勢報告

日本糖尿病協会通信・日本糖尿病協会常任理事 谷 日出男

◆組織問題経過（速報）◆

公益法人の見直しを国は進めています、これにともない特別公益法人である日本糖尿病協会も、引き続き新公益法人としての認可を申請するか否か検討を進めて来ました。

新公益法人認可の条件は厳しく、現在の日本糖尿病協会の組織・運営の形では認可は受けられず、大きく形を変える必要があります。現在、日糖協の方針としてつぎのように考えています。

- ①本部は決算内容をもて、必要性があれば新公益法人に申請する、平成22年5月（延長が認められれば25年11月）までに申請出来るよう準備を進めておく。
- ②本部を公益法人に申請し、支部は任意団体とし「都道府県糖尿病協会」と名乗る。
- ③会則を作り、会員は日糖協と県協会の双方に入会するようにする。
- ④日糖協と県協会は「業務提携」をして「協力協定書」を交わす。
- ⑤会費は県連個々で現行通り。
- ⑥地方連絡協議会は日糖協の組織としない。ブロック毎に会合を持ち連携活動の場とする。

概要は以上の通りですが、新公益法人に変わることが出来ても、これまで私達が親しんできた「糖尿病友の会」の活動理念から離れてしまわないように配慮する必要があります。

…日ごろの思い…



社団法人日本糖尿病協会 関東甲信越地方連絡協議会副会長 北村 信一

糖尿病の方々が健康人並みの日常生活と寿命を得るためには、医師の指示する適切な治療を継続して自己管理し合併症を防ぐことが大切です。しかし、人間は弱いものですから継続自己管理を支援する体制が必要でしょう。その第一は医療スタッフによる療養指導の継続、第二は家族、社会の支援、そして第三が患者さん方同士の助け合いです。この第三の支援組織として昭和36年に日本糖尿病協会が発足、地域での活動を連絡調整する目的で地域連絡協議会を作りました。その一つが関甲信なのですが、昔に比べ会員が減り活動も後退気味に見えます。「城は人なり」、「数は力なり」です。まずは会員みんなの力で自分の分会の会員数を、そして分会の数を増加させ、その力で活動を「チェンジ」したいものです。

2009年(平成21年)3月15日 東京都糖尿病協会会報 2号

東京都糖尿病協会会報

〒153-0053
東京都港区赤坂4-6-15-5
5F 東京都糖尿病協会東京支部
〒100-0005 東京都千代田区千代田1-1-1
(株)日本郵政ビル6F 東京支部
TEL: FAX 03-5373-0766
e-mail: gdp@tokyo.tyohokai.or.jp
tokyo.tyohokai.or.jp

東糖協の前進のために

— 会員の増加を期待する —

東京都糖尿病協会 責任者 本橋 義治

3

失の得に於いて、負の側面を先

生ずる側面は、決して無視され

ずるべきではないとされている。

この場合は、糖尿病の増加に

関する、社会問題である。

そこで、この「負」の側面から

具体化して、社会や公的機関、

市民、患者の側面から、広がり

て、問題の正の側面を求めて

おきます。

「正」の側面を求め、東糖協の加

入することによって、糖尿病の増加

を抑制できるという、知見を社会に

提供すれば、社会の「負」の側面

を抑制する一つの「正」の側面

として、社会の正の側面を、広

こころの通でやります。

知人の糖尿病を患った友人に

対して、糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

印刷：俊和 株式会社印刷局

1

糖尿病の増加は、予知不可能な
病気の増加の傾向がある。これは
糖尿病の増加の傾向がある。こ
れは糖尿病の増加の傾向がある。
これは糖尿病の増加の傾向があ
る。これは糖尿病の増加の傾向
がある。これは糖尿病の増加の
傾向がある。これは糖尿病の増
加の傾向がある。これは糖尿病
の増加の傾向がある。これは糖
尿病の増加の傾向がある。これ
は糖尿病の増加の傾向がある。

糖尿病の増加は、予知不可能な
病気の増加の傾向がある。これは
糖尿病の増加の傾向がある。こ
れは糖尿病の増加の傾向がある。
これは糖尿病の増加の傾向があ
る。これは糖尿病の増加の傾向
がある。これは糖尿病の増加の
傾向がある。これは糖尿病の増
加の傾向がある。これは糖尿病
の増加の傾向がある。これは糖
尿病の増加の傾向がある。これ
は糖尿病の増加の傾向がある。

糖尿病の増加は、予知不可能な
病気の増加の傾向がある。これは
糖尿病の増加の傾向がある。こ
れは糖尿病の増加の傾向がある。
これは糖尿病の増加の傾向があ
る。これは糖尿病の増加の傾向
がある。これは糖尿病の増加の
傾向がある。これは糖尿病の増
加の傾向がある。これは糖尿病
の増加の傾向がある。これは糖
尿病の増加の傾向がある。これ
は糖尿病の増加の傾向がある。

— 会員の増加を期待する —

東京都糖尿病協会 責任者 本橋 義治

3

失の得に於いて、負の側面を先

生ずる側面は、決して無視され

ずるべきではないとされている。

この場合は、糖尿病の増加に

関する、社会問題である。

そこで、この「負」の側面から

具体化して、社会や公的機関、

市民、患者の側面から、広がり

て、問題の正の側面を求めて

おきます。

「正」の側面を求め、東糖協の加

入することによって、糖尿病の増加

を抑制できるという、知見を社会に

提供すれば、社会の「負」の側面

を抑制する一つの「正」の側面

として、社会の正の側面を、広

こころの通でやります。

知人の糖尿病を患った友人に

対して、糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメカニズムを

友人の糖尿病のメ

編 集 編 記

支部事務局が突然長野県に移転し、こちらの関係者の慌てふためきぶりは目を覆うばかりでした。“とうゆう”の存続はもはや風前の灯かと思われましたが、“とうゆうだより”となって生きながらえ、新しい編集委員のメンバーにより無事発行することに成功しました。とはいえ、内容のレベル低下は隠しようもなく、雰囲気も野暮ったくて、学級新聞みたいになってしまいました。次回は、編集委員の衰え果てた脳をなんとか酷使して、ささやかながら向上を図りたいと思います。

編集委員長

☆インターネットご案内☆

原稿（文章、写真、イラストも可）は各支部事務局を通じ関東甲信越地方協議会事務局までお寄せください。関東甲信越の

URL <http://www.bm-net.co.jp/en-joy/kankosin.htm>

**編 集 委 員**

多田久也（委員長）、大槻瀬平、米沢光夫、
高柳富美江、柳沢勇三、青木美智子、鶴見充子。
顧問：松葉育郎、相談役：菅原正弘。

有限会社 ミヤサカ印刷

■〒390-0852 長野県松本市島立 1144-1
■TEL (0263) 47-3017 FAX (0263) 47-7608